

## 第 12 回 寄附 講義

7 月 3 日

テーマ：「行政のおもしろさ」

講師：大分県日出町 町長 本田博文さん（大 28 回）

本田町長は、工業高校を卒業して一旦企業に就職した後に受験勉強に挑戦し、大分大学経済学部に入學された。大分県庁を定年まで勤めて、今度は選挙に打って出て町長に就任するという、とらわれない自由な発想と努力を重ねてこられた人。これまで歩んできた道を紹介しながら、後輩に思いを語られた。



### 1 自己紹介

小学校での新聞配達経験から、人の優しさと働いて収入を売ることの大切さを学んだ。

### 2 高校から就職まで

農村では実業系高校に進んで就職するのが一般的だった。機械が好きで大分工業高校電子科に進学。県外に出てみようとして、富士通川崎工場に就職。政治や経済の知識が乏しいことを相談した先輩から、大学で学ぶことを勧められる。

### 3 大学を目指して

家から通えること、学資を自分で賄うことを考えると、大分大学経済学部を選択肢は絞られた。高校時代は受験勉強とは無縁だったので予備校に。最初は難しくついて行けなかったが努力して2年目に合格。在学中は配送業でアルバイトをしてトラックの免許を取得したことも。

#### 4 県庁を選んだ理由

国土の均衡ある発展を謳った三全総（第三次全国総合開発計画）のことが頭にあり、県庁の仕事に興味を抱いた。採用試験の競争倍率は20倍で、相当に勉強した。

#### 5 県職員時代の経験

33年間の勤務中16回異動。圃場整備、道路管理、国民健康保険、地域医療、福祉事務所、県税事務所と多くの職場を経験。県税の仕事は、各種の税の減免制度を通して行政の全体像をつかむのに役立った。

単独で1か月間、4か所以上を訪問するのが条件の海外派遣研修で視野が広がった。アポイントも旅行手配もすべて自分で行う。

定年退職後、大分県奨学会で働くうちに、もう一度行政の仕事をしたと思うようになった。

#### 6 町長になろう

選挙に出ようと決めても、身内に政治家がいるわけなし、事務所も後援組織もなく、ゼロからの出発。無我夢中の5カ月を経て町長に当選した。

目指したのは「子育ては日出町、住むのも日出町、老後も日出町」

#### 7 町長になって

医療費無料化施策の拡大、住民税非課税世帯への入学一時金支給等を行う。

自ら考え、決定できる職員の育成を目指して、何か課題があれば担当部署の職員と一緒に長時間考えることを繰り返した。

#### 8 皆さんにお勧めしたいこと

- ・自分の仕事を、二つ上の職位者の立場で考えるようにすること。
- ・各種の集まりで、とっさに指名されても対応できるように挨拶を準備する癖をつけること。
- ・困ったら、とにかく藻掻くこと。現場に行き、人の話

を聞き、研究し、選択肢を書き並べてみる。

- 目標とする上司を見つけること。
- トラブルはつねにいくつもある。トラブルとうまく付き合うこと。一つのことにより拘泥しない。

